

【生薬名】 釣藤鈎 *UNCARIAE RAMULUS ET UNCUS*

【起源植物】 カギカズラ *Uncaria rhynchophylla*

【科名】 アカネ科 Rubiaceae



【別名】 鈎蔓、鈎蔓、カギノツル、タケカズラ竹蔓

【薬用部分】 茎のカギ部、鈎棘の付着した茎枝

【主成分】 リンコフィリン、イソリンコフィリン

【薬性】 気味は甘微寒、帰経は肝心包に属す

【効能】 ●平肝止瘧

●高血圧、脳動脈硬化による頭痛、めまい、しびれ等、鎮静に、
3～9 gを10分間だけ煎じて服用する

●釣藤鈎単味でも血圧を下げる効果はあるが紅花の併用が効果的

●高熱による痙攣によい、熱盛痙攣に良く予防効果もあるが、単
独では効果が弱く、羚羊角、天麻、全蝎などと併用する

●成人病による肩こり、頭痛、めまいに釣藤鈎、桑葉、菊花、茯
苓を煎服すると良い

【出典】 ●釣藤鈎 微寒、兎驚癇、手足瘳癢を療し口眼を抽搐す。(薬性歌)

●

【備考】 ●長時間煎じるとリンコフィリンが分解するので効果が減少する
ので長くても15分までとする

●

●

【処方例】 ●釣藤散、七物降下湯、抑肝散、天麻釣藤飲、天麻鈎藤飲